

# つぼみ菜のハウス栽培

適作型（宮城県標準）

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○	▲					

栽培方法

## ◇播種（露地）

播種量は10a当たり1d粒。幅1～1.2床を作り条間15cmに条まきし、播種後30日前後で、本葉4～5枚まで育苗します。

ペーパーポットやセルトレイで育苗する場合は、穴数が多くなるほど育苗期間が短くなります。（128穴セルトレイで約25日）。

ハウスが空いている場合はハウスに直まきの可能です。

## ◇本圃準備（ハウス）

（1）土壌pH

pH6.5前後に石灰質資材で矯正し、良質な堆肥を十分に施用して深耕します。

（2）施肥

前作が果菜類の場合は無肥料でも栽培可能ですが、基本的にはEC値を測定して決定します。標準施肥量（元肥）は10a当たり成分でN-15、P-22、K-15前後とする。

施肥例（10a当たり）

完熟堆肥	2～3 t
苦土石灰	120 kg
海物語（ぼかし肥）	300 kg
CDUたまご化成	60～70 kg
ホウ酸塩肥料	1 kg



## ◇定植

マルチは、グリーンマルチをおすすめします。マルチは乾燥防止、地温上昇、雑草対策にもなります。

## ◇定植後の管理

（1）換気操作

11月中旬まではハウスは常時昼夜ともに全開放（最大限の換気）して、株張りのよいがっちりした株作りをすることが大切です。11月下旬以降は夜温も低くなるので、ハウスの開閉をし、順調な生育を促します。日中は葉のある位置で15～20℃位で管理し、午後は早めにハウスを閉めて保温に努めます。換気不足による軟弱徒長株は、寒害やカルシウム欠乏を受けやすいので、厳重に注意します。

## (2) 追肥

生育に応じて液肥チューブかん水で行います。特に収穫期には肥料切れしないように定期的な追肥が必要です。

## (3) 側枝の発生を促すため

12月中旬より3月上旬頃まで夜間はトンネルまたはカーテンで保温します。

## ◇ 収穫・調整

### (1) 収穫

◎親茎・・・蕾があまり上がらないうちに早めに収穫します。(摘芯効果を与え側枝の伸長を促す)

◎側枝・・・蕾の位置が茎葉の中心前後になる様バランスよく収穫します。特に収穫中期(2月下旬)以降は蕾の上がりが早くなります。収穫が遅れないようにしてください。

### (2) 調整

出荷調整は、下部を直角に切り揃え、所定の重さに調整しFGフィルムにきれいに入れます。200g(入目5%)で茎葉の長さは、22cm前後。

## ◇ 全般の管理

### (1) 摘葉

過繁茂、老化黄変している葉をマルチ面が少し見える程度に摘み、側枝に十分光が当たるようにします。

### (2) 温度

生育前半(11月下旬位まで)は気温を低くし、後半は保温に努めます。トンネル、カーテンは朝に全開にしてください。ハウスは日中、葉のある位置で15~20℃位の管理とし、晴天時の換気にも注意します。午後は、早めにハウスを閉めて保温してください。

### (3) 追肥、かん水

主に側枝収穫始めから、チューブによる液肥かん水を行います(アミノキッポ、多木有機液肥1号など)。土壌水分の多い場合は、葉面散布が効果的です(アミノメリット黄)。